

平成28年度第2回千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会議事録要旨

- 1 日 時 平成28年10月5日（水）午後1時30分～午後3時00分
- 2 場 所 千葉競輪場4階多目的室
- 3 出席者 （委員）
篠崎委員長、高岡委員、藤本委員、山本委員
（事務局）
鴻崎所長、池原経済企画課長補佐鈴木主査、上坊寺経済企画課主査
山本主任主事
（日本写真判定株式会社 以下JPF）
吉川部長、小宮次長、荻原事業長、石塚事業長代理、高橋事業長代理、
邊田代理、青野

4 議 題

- （1）包括業務委託の進捗状況モニタリングについて（7月～9月）

5 会議経過

（篠崎委員長）

議題1の包括業務委託の進捗状況モニタリングについて、JPFに説明を求める。

（包括業務委託の進捗状況モニタリングについて）

（JPFが配布資料に沿って説明）

（イベントについて）

- ・7月3日にアフターナイトパーティーを開催した。選手とファンの交流の場を作ることにより、選手とファンの間を近づけて、新たなファンを増やしたい。選手の人柄などを知り、応援する気持ちになっていただき、車券の購入につなげたい。
- ・鹿沼さん、田中さんのリオパラリンピックの壮行会が（JPFが実行委員会事務局を担当して）行われた。銀メダルという、素晴らしい結果を残してくれた。壮行会にも400人くらい集まった。本人たちの力になったと思う。千葉競輪場という場所から銀メダリストが生まれたということで、競輪場のブランド力も上げられたと思う。
- ・10月4日に横断幕が届くので、横断幕を千葉競輪開設記念に来たお客様に大々的に見てもらう。千葉競輪場のイメージアップに最高の機会と考えている。
- ・競輪場で野菜作りを行ったキッチンストーリーについて、実際に栽培したキュウリ、ミニトマト、オクラなどの作物のほか、当日は肉やマグロも追加して総勢60名ほど

の参加者によるにぎやかなＢＢＱパーティーを実施した。野菜作り体験から実際に食べるところまで経験できるイベントで、競輪場の新たな魅力づくりにつながったと考えている。

- ・ 4回目の自転車レース、弱虫ペダルカップを開催した。今回は初めて2日間で行い、参加者は167名だった。当日来た自転車メーカーの方々から、「女性がたくさんレースに参加して、ファンライドに近い形で楽しんでいる。今後も参加者の方たちに楽しく自転車に乗り続けてもらいたい。」との話があった。どうしてもレースとなると、殺伐とした雰囲気になりがちなので、参加者が自転車を楽しめる大会を開催していきたいと思う。
- ・ 第1投票所のリニューアルを行った。現在は、イベント開催時のスポット的な営業を行っている。今後は女性をターゲットにしたメニュー作りを行って、自転車カフェの運営をやっていききたい。

(統制業務について)

- ・ (データ通信の高画質化に対応できる) 映像システムのHD化の工事については、場内のテレビの大型化やシステム変更を行った。オッズ等も見やすくなり、ファンサービスの向上に結び付いた。各場外競輪場へのHD放送が可能になったため、8月30日から実際に放送を開始した。

(売上事業計画の進捗について)

- ・ 7月と8月に千葉市営競輪のFⅡ、FⅠを開催したところ、当初の予定よりは売上額が多かったが、9月FⅡは当初の予定よりも売上額が少なかった。
- ・ 場外車券売上額については、当初の予定より売上額が少ない。
- ・ 千葉競輪場が開催している日に、他の全国の競輪場でどういう開催をしているかを分析したところ、他場でFⅠ開催の最終日にあたる日は、電話投票の車券売上額が大きく下がることがわかった。開催日程に関わる部分のため、どうにもできない部分だが、キャンペーンをうまく使い、電話投票などで売上を確保していきたいと思っている。
- ・ 昨年度と今年度の4～9月期の本場開催の開催日数と売上の状況について、昨年度はジャパンカップという全国的に発売することで売上増が期待できるFⅠを開催したため、FⅠについては数字を比較しにくい。FⅡについて比較すると、1日当たりの売上はほぼ横ばいだが少し下降傾向にある。車券売上を確保するために、今後、キャンペーンやHD化を有効に活用していきたい。
- ・ 今年度の全国における本場売り上げについては、前年比91.5%と下がっているが、専用場外が109.9%、電話投票が105.1%と上昇しているため、車券売上総額は前年度比100.5%とプラスである。競輪場における本場売上が全国的に下がっている。

- ・競輪場の運営のためには、本場の売上を確保して、電話投票と専用場外（サテライト）の（売上増加）対策が必要となる。
- ・場外車券の発売における、グレード別の発売状況と、昨年度と今年度の４月～９月期の比較については、GⅠ、GⅡと呼ばれる特別競輪の日程が変わっており、単純比較はできない。GⅡについては、売上が１日平均でも伸びている。しかし、各競輪場の売り上げで大きな割合を占める、GⅢレースが開催平均売上で昨年度５４億７，０００万から今年度は５４億５，０００万と全体的に下がっている。今回は千葉競輪開設記念を１０月に開催するが、千葉市開府８９０周年にかけた最大総額８９０万円のキャッシュバックを実施するなど、なんとか車券売上額を確保したい。

（ネクストステップについて）

- ・セントラルスポーツとのイベント協力について、千葉競輪場を使ったバンク体験、青空ヨガ教室、競輪セミナーを行う。バンクを使って競輪セミナーを行い、広い芝生の上で青空ヨガを実施する提案があり、実施に至った。参加者は３０名くらいの予定。
- ・１１月３日の大漁まつりにブースを出展する。自転車の魅力を伝えるため、メーカーからの依頼で変身バイクという子ども向けの企画を行う予定。
- ・１１月１３日にタンデム試乗会を開催する。１０月１９日の市政だよりに掲載予定。田中まい選手が銀メダルを獲得したこともあり、熊谷市長が「公道でタンデム自転車は走れないのか。」とツイッターに書き込みがあった。
- ・キッズケイリンというイベントを検討している。JPFは包括受託している富山、広島、及び松阪の各競輪場と合わせてこのキッズケイリン大会を行って、ゆくゆくは、頂上決戦を行いたいと考えている。
- ・「千葉あそび」で、昨年に続いて再び体験コーナーとして、千葉競輪場を自転車でバンクを走り、競輪の車券を購入してもらう予定。

（千葉競輪開設 67 周年記念滝澤正光杯について）

- ・CHIBA LOVES FAIRとの同時開催として告知を行う。
- ・１０月８日に、千葉テレビに森田知事が出演している熱血 BO-SO テレビに田中まい選手、中村支部長が出演して、PRをする予定。
- ・千葉競輪のHPでカウントダウンを実施中。
- ・場内に入ってすぐのところで、千葉競輪開設記念まであと何日という、日めくりカレンダーを設置した。
- ・バンク内のイベントについては、今回の目玉として、キッズケイリン以外にサイクルクラブカップの開催、田中まい選手・オリンピック細田さんのトークショーなど、場内の新しいファンに向けて報告を行う。

（ガールズケイリン開催について）

- ・12月のジャパンカップ、3月のF Iでガールズケイリンの開催が決定した。
- ・日本競輪選手会千葉支部に優秀なガールズ選手が在籍しているので、彼女たちに出演してもらい、ホームグラウンドでガールズケイリンの開催を盛り上げて、田中まい選手の銀メダルを市民の皆さんに報告したい。
- ・12月のガールズケイリン開催に向けて施設を改修している。選手管理棟の男子控室エリアに仕切りを設置して、女子の控室スペースとした。既存の施設の改修で、女子の選手の控室スペースを確保できた。トイレ等は大掛かりな改修を行っている。

(篠崎委員長)

議題(1)包括業務委託の進捗状況モニタリングについて、事務局にモニタリング結果の説明を求める。

(事務局 鈴木主査)

- ・受託者から提出のあった平成28年度開催事業実施計画にもとづき計画通り事業を実施していることを確認した。
- ・開催ごとに、7月から9月までの開催業務実施計画書及び開催業務実施報告書の提出を受けて、市営競輪の開催業務について検査を行い、実施計画通り開催業務を良好に遂行していることを評価した。

(藤本委員)

8月30日の千葉市営競輪からHDによる放送を開始したとのことだが、売上への影響どうか。

(事務局 鴻崎所長)

- ・HD化に伴い、今までのアナログだった情報がデジタルに変わり、(お客様が見るモニターの映像が)高品質化された。今までは、他場で開催する場外車券を発売する際には、他場からの(デジタル信号)をアナログ化していた。今後、モニターの映像が高品質化されるため、場外車券発売でも車券売上額が上がると思っている。また、インターネットでオッズなどを見る際にも、HD化により高画質になった。千葉競輪開設記念が10月に開催されるので、影響を検証したい。

(篠崎委員長)

HD化については、やっと世間並みになったということか。

(事務局 鴻崎所長)

- ・千葉競輪場の場合は、他の施行者よりも1、2年遅れている。全国で43の競輪場があるが、未実施の競輪場はあと1、2か所。その競輪場も、来年度対応する予定と聞いている。

(高岡委員)

- ・専用場外と場間場外の違いは何か。

(J P F)

- ・専用場外というのは、サテライトと呼ばれる、競輪の車券を専用で発売する施設。
- ・場間場外は、場外車券を発売している競輪場。

(高岡委員)

千葉競輪場も場間場外か。

(J P F)

- ・他場を売る場合は場間場外になる。

(高岡委員)

千葉競輪場への来場者がなかなか増えないということか。

(J P F)

- ・専用場外のサテライトに行くと、競輪以外にオートレース、ボートレース、中央競馬、地方競馬を一緒に発売している専用場外もある。競馬も競輪もオートレースも買える専用場外が増えている。競輪しか買えない競輪場よりも、いろいろ遊べる専用場外にお客さんが増えている。

(高岡委員)

イベントによる集客の努力が、結果として場外収入に結びついていない。イベントの効果は場外収入につながらないのではないか。

(J P F)

- ・競輪場でしかできない自転車レースなど、実際にお客様に来ていただいて、次はお客様に買っていただく行為につなげていくことが重要だと認識している。こんな競輪があるから、皆さんで買いましょうといったイベントをしていきたい。
- ・アフターナイトパーティーでも、競輪教室を同時開催するなど、車券売上につなげるよう工夫している。
- ・サイクルクラブの参加料に500円の会費を支払うメンバーは、会費の代わりに500円分の購入した車券を見せることで無料にしている。

(篠崎委員長)

競輪に対するファンと自転車のファンと、少し違うような気がする。自転車のファンを対象にイベントをたくさん実施しているが、競輪ファンにも伝わっているのか。また、売り上げに結びついているのか。

(J P F)

- ・体育の日にセントラルスポーツとのコラボレーションで、青空ヨガを実施するが、そこでも競輪セミナーを開催して、競輪の醍醐味を伝えていきたいと考えている。自転車を楽しめることが競輪場の売りだと思っているので、セミナーでは、自転車に乗ってきた人を競輪車券の購入までつなげる内容にしている。
- ・普段競輪だけをやっているお客様に対しても、競輪場内での自転車イベントに対して新しい興味を喚起している。

(事務局 鴻崎所長)

- ・車券売上を増やすために、まずは様々なイベントでお客様にご来場いただき、効率的に車券売上の増加につなげていきたい。

(高岡委員)

J P Fは千葉競輪場を盛り上げて、それを車券売上の増加につなげることが一番重要。次のステップにつながっていくのか。

(事務局 鴻崎所長)

- ・競輪界は、今までの顧客の皆様方に支えられてきた。新規ファンの獲得に向けて、J P Fが色々イベントをやってきた。確かに色々な方が来られているが、車券売上に直結していない。そこは、J P Fだけではなく、施行者としても一緒に整理したい。例えば、新規ファンにサイクルカフェに来てもらって、そこで車券が買えるようにするなど。サイクルカフェは、千葉競輪開設記念からオープンする。

(J P F)

- ・サイクルスポーツとして競輪場を開放することにより価値をあげる方法を独自調査している。
- ・サイクルスポーツ親和層で、サイクルスポーツに興味がある。実際に自転車に乗っているなど、実際に自転車に興味がある方と全くない方を分けて、サイクルスポーツ親和層と一般層に、競輪のレース映像を見た後に車券を買ってみたいかどうかを聞いた。調査の結果は、サイクルスポーツ親和層が、一般の方と比較して3倍以上購買意欲があるという数字が出た。潜在顧客としての可能性は、サイクルスポーツ親和層が有望。将来、ファンになり得る可能性が高い。

(山本委員)

今後の収益について、千葉市の考え方を聞きたい。

(事務局 鴻崎所長)

- ・本来なら、今年はジャパンカップを開催しない年だったが、松戸競輪場との調整の中で、12月にジャパンカップを開催することになった。千葉競輪開設記念とジャパンカップの売上で、昨年並みの車券売上額を確保したい。

(山本委員)

昨年度の繰越金はどのくらいか。

(事務局 鴻崎所長)

- ・平成27年度の単年度収支は1億9,000万円の黒字だった。市の予算では特別会計のため、歳入イコール歳出になる。収入と支出の差が繰越金になり、最終的な収支になる。昨年度末で過去からの繰越金は約7億円だった。

(山本委員)

繰越金が出なくなる損益分岐点はいくらなのか。

(事務局 鴻崎所長)

- ・施設修繕などで異なる。予算ベースで今年度はHD化で約1億7,000万円、昨年度はウォークトップ修繕に約5,000万円弱。単純に引くと、1億2,000万円多く使う。平成28年度の収支は、仮に収入が同じと仮定して、支出を単純に比較すると、1億9,000万円から1億2,000万円を引いた、7,000万円くらいの黒字予想。単純に施設修繕等の支出が増えると繰越金を使うことになるので、単年度赤字となる。

(高岡委員)

平成27年度は単年度で黒字なのか。

(事務局 鴻崎所長)

平成27年度は単年度で1億9,000万円の黒字だった。

(高岡委員)

今年度に関しては単年度の赤字になる見込みということか。

(事務局 鴻崎所長)

今年度はHD化の支出が1億7,000万円だったため、単純に去年並みの収支だった場合には7,000万くらいの黒字になる。ただ、当初の開催予定には、ジャパンカップが入ってなかった。普通のF1レースだと7～8億円よくて10億円くらいだが、昨年のジャパンカップの売上は18億円くらいだった。今年度はHD化の支出が多いが、赤字にはならないと考えている。まだ、千葉競輪開設記念もジャパンカップも開催してないため、今の段階では答えられない。

(山本委員)

所長が予想する繰越金が出せなくなるような状態になるのは？

(事務局 鴻崎所長)

- ・この建物を含む施設全体が老朽化している。施設修繕費を考えると、平成35年度位

に赤字になる。これが競輪場の廃止を検討した理由。廃止する時には、解体費が必要になるので、それを一般会計から支出するのは困難となる。平成 27 年度の決算で 7 億の繰越金があるので、3 年で同じくらい増えれば約 10 億円になる。10 億円で競輪場の施設を解体することができると考えている。

(藤本委員)

施設修繕費はどれくらいかかるのか？

(事務局 鴻崎所長)

- ・全部で 30 億円～40 億円になると思う。

(篠崎委員長)

ジャパンカップは、最近になって開催が決まったのか。

(事務局 鴻崎所長)

- ・県内の松戸競輪がジャパンカップを開催できないため、千葉と松戸の順番を入れ替えた。ただし、今回の開催により、来年度のジャパンカップの開催がなくなる。
- ・ジャパンカップについては平成 23 年から開催されており、いわき平・千葉・松戸・川崎・平塚・小田原・静岡・伊東・豊橋・松山・熊本・別府で協力しあいながら売りあう FI 最大のイベントで、10 億以上の売上が期待できる。その前までは、南関カップとして南関東ブロックで売り合いが行われてきた。

(篠崎委員長)

議題 1 について了承。